５－２　全国トップレベルの子どもの体力の維持・向上

（１）鯖江市の地域特性と今後の方向性

平成 22 年度に実施された「小学校新体力テスト調査」によると、福井県は全国でもトップレベルにあり、中でも鯖江市は県内トップレベルの体力を維持しています。しかし、全国的な傾向となっているスポーツをする子、しない子の体力格差、いわゆる「二極化」が進んでおり、鯖江市においても、年齢が高くなるほど個人差が広がる傾向がみられます。

このため、学校教育での体育活動はもとより、家庭、地域、学校が連携し、遊びやスポーツに親しむことのできるスポーツ環境づくりを積極的に進めます。

更に、より多くの子どもがスポーツ活動に参加し、体力を向上できるよう、子どもの体力づくりに対する市民のスポーツ意識の向上の啓発を進めます。

■ 小中学生の運動能力の全国平均、県平均との比較

《小学生》

	男子			女子		
	４年	５年	６年	４年	５年	６年
上体起こし	◎	◎	△	◎	◎	◎
長座体前屈	◎	◎	◎	△	◎	◎
反復横とび	◎	◎	◎	◎	◎	◎
50m走	△	◎	◎	◎	◎	◎
立ち幅跳び	△	◎	△	△	◎	◎
ソフトボール投げ	▲	△	▲	▲	△	△
20mシャトルラン	◎	◎	◎	◎	◎	◎
握力	◎	◎	△	◎	△	○

◎：市の平均が全国平均、県平均より優れている
○：市の平均が県平均より優れている
△：市の平均が県平均より劣っている
▲：市の平均が全国平均、県平均より劣っている

《中学生》

	男子			女子		
	１年	２年	３年	１年	２年	３年
上体起こし	◎	◎	◎	◎	◎	◎
長座体前屈	◎	◎	◎	◎	◎	◎
反復横とび	◎	◎	◎	◎	◎	◎
50m走	◎	◎	◎	◎	◎	◎
立ち幅跳び	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ソフトボール投げ	◎	◎	◎	◎	◎	◎
握力	▲	▲	◎	◎	◎	◎

◎：市の平均が全国平均、県平均より優れている
▲：市の平均が全国平均、県平均より劣っている

（出典：新体力テスト（全国平均は平成 21 年度、県と市平均は平成 22 年度））

（２）特徴的な取り組み

・学校と総合型地域スポーツクラブ・スポーツ少年団など各種スポーツ団体との連携（学校と地域で活動できる指導者の養成・確保など）
・スポーツ少年団の活動内容の充実、各競技団体間の連携強化
・総合型地域スポーツクラブの小中学生向けプログラムの見直し・充実
・放課後児童クラブにおける運動やスポーツに親しむ機会の提供

（３）現状とこれまでの取り組みの総括

平成 27 年度に実施された「新体力テスト」においても、福井県は、小・中学校で全国でもトップレベルにあり、中でも鯖江市は、県内トップレベルの体力を引き続き維持していることから、学校と地域の連携、家庭の理解と支援が、全体的に円滑に関係にあると考えられます。

■ 小中学生の運動能力の全国平均、県平均との比較

小学生	男子						女子					
	H22年度			H27年度			H22年度			H27年度		
	4年	5年	6年	4年	5年	6年	4年	5年	6年	4年	5年	6年
上体起こし	◎	◎	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
長坐体前屈	◎	◎	◎	△	◎	◎	△	◎	◎	△	◎	◎
反復横とび	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
50m走	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
立ち幅跳び	△	◎	△	◎	◎	◎	△	◎	◎	◎	◎	◎
ソフトボール投げ	▲	△	▲	△	△	△	▲	△	△	△	△	△
20mシャトルラン	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
握力	◎	◎	△	◎	▲	◎	◎	△	○	◎	▲	◎

中学生	男子						女子					
	H22年度			H27年度			H22年度			H27年度		
	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
上体起こし	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
長坐体前屈	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
反復横とび	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	△
50m走	◎	◎	◎	◎	▲	△	◎	◎	◎	◎	△	◎
立ち幅跳び	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ハンドボール投げ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
持久走	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
握力	▲	▲	◎	○	▲	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

（出典：新体力テスト（全国平均は平成 21・26 年度、県と市の平均は平成 22・27 年度））

しかし、一層進む少子化の影響もあり、スポーツをする子、しない子の体力格差、いわゆる「二極化」の傾向は本市においても例外ではなく、また、年齢が高くなるほど個人差が広がる傾向があり、誰もが気軽に親しめるスポーツ環境づくりが求められています。

（４）今後の方針

これまでに同様、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団活動を軸として、家庭、地域、学校が連携し、遊びやスポーツに親しむことのできるスポーツ環境づくりを積極的に進めるとともに、市民スポーツふれあい事業やスポーツ親子教室などを通して、子どもの体力づくりの大切さに対する市民の意識向上に努めます。

中間評価（効果・有効性等）

進捗状況の評価	今後の方向性の確認	推進委員会の提言
B	現状維持	